

感染症定期報告の報告状況(2007/1/1~2007/3/31)

資料No.3-1

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2007/01/11	60790	ベネシス	人ハプトグロビン	人ハプトグロビン	人血液	非献血:米国、献血:日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは未精製のプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												パルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のパルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、パルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐ろしくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用精査	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が頭在比率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイピー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデブスフィルターでの濾過が有効とされている。
												ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	ヒトボカウイルス感染の疫学的プロフィールおよび臨床的特徴を調べるため、2歳未満の小児のヒトボカウイルスを調査した。直接的免疫蛍光試験でRSV(respiratory syncytial virus)、パラインフルエンザウイルス(1-3型)、インフルエンザAおよびB、並びにアデノウイルスが陰性であった425名中22名(5.2%)がPCRでヒトボカウイルス陽性であり、無症候であった96名では陽性者はゼロであった。この試験期間中、2つの異なる遺伝型が見られた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。これらもまた別のプリオン株を代表するかを調べるため、H型と呼ばれる高分子量のウシの単離体を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、この株に感染し、感染性プリオンの新規の株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイピー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低い、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC (TSE Advisory Committee) は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。
2	2007/01/12	60791	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ウマ血清	ウマ血液		製造工程	無	無	無			
3	2007/01/12	60792	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ムロモナブ-CD3	マウス腹水		有効成分	無	無	無			
4	2007/01/12	60793	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ合衆国またはカナダ	製造工程	無	無	無			
5	2007/01/12	60802	第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	結核	WHO 2006年9月5日	WHOは病原性が強く、致死性の結核の世界的な拡大防止の強化および措置を求めた。6クラスの第2選択薬の3クラス以上に耐性のある多剤耐性結核(XDR-TB)は世界の様々な地域で確認されており、特に旧ソビエト連邦やアジアで多い。また南アフリカではXDR-TBでHIV陽性である患者群で極めて高い死亡率が確認されている。
6	2007/01/15	60803	科薬	トロンビン	トロンビン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			
7	2007/01/15	60804	科薬	トロンビン	トロンボプラステン	ブタ肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
8	2007/01/15	60805	バイオジェン・アイデック・ジャパン	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	米国	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	カナダ食品検査局は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を行った。このウシはカナダで7頭目のBSE牛である。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。同じ農場で出生または飼育されていた172頭についても追跡調査され、生存が確認されたウシは処分された。飼料の調査も行われた。ウシの飼料を生産する工場では、禁止物質を含む非反芻動物用の飼料が生産されていたことがあり、汚染された可能性があった。
9	2007/01/15	60806	バイオジェン・アイデック・ジャパン	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	ウシトランスフェリン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60805に同じ
10	2007/01/15	60807	バイオジェン・アイデック・ジャパン	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60805に同じ
11	2007/01/19	60808	味の素	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	ブラジル	有効成分	有	無	無	エルシニア感染	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	散発性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。ブタがヒトエルシニア症の重要な起源であることが示唆された。
												ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 1710-1712	最近、オランダで養豚業者がしばしばMRSAを保有することが報告されている。これらのMRSA株はブタでみられるMRSA株と関係がある。ケースコントロール試験の結果、ウシ飼育業者もMRSAキャリアである危険性が明らかとなった。養豚業者が入院する場合は、MRSA陰性と分かるまで、隔離するように勧告する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。
12	2007/01/22	60809	三菱ウェルファーマ	アプロチニン製剤	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
13	2007/01/24	60810	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモスチム	ミリモスチム	ヒト尿	中国、台湾	有効成分	無	無	無			
14	2007/01/24	60811	富士製薬工業	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国、ブラジル	有効成分	無	無	無			
15	2007/01/24	60812	ZLBベアリング	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
16	2007/01/24	60813	ZLBベアリング	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			
17	2007/01/24	60814	ZLBベアリング	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	60812に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60812に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指値	感染症(PT)	出典	概要
18	2007/01/25	60815	日本オルガン	ダナバロイドナトリウム	ダナバロイドナトリウム	ブタの小腸粘膜	ベルギー、ドイツ、フランス、スペイン、オーストリア、オランダ	有効成分	無	無	無			
19	2007/01/25	60816	日本オルガン	①下垂体性性腺刺激ホルモン ②胎盤性性腺刺激ホルモン	①下垂体性性腺刺激ホルモン②胎盤性性腺刺激ホルモン	①更年期婦人尿②婦人尿	①オランダ ②ブラジル	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED-mail20060730.2110	ブラジルのRioでは、2006年7月17日現在、デング熱患者数は26712例に達し、2005年の10倍以上となった。この内、36例が出血熱で、5例が死亡した。Sao Paulo州Ribeirao Pretoではデング蚊蔓延指数が2005年の同時期に比べ、35%増加し、すでにデング熱確定患者は2182例となった。
												デング熱	Public Health Agency of Canada 2006年10月13日	カナダ公衆衛生局は世界中のデング熱発生状況の監視を続け、旅行者に注意を呼びかけている。ブラジルでは2006年最初の30週で234068例、ドミニカ共和国では36週で3528例、エルサルバドルでは37週で17256例などと、2005年の総数より増加している。
												ウイルス感染	ProMED-mail20061014.2953	フランスCDCであるInVSによると、住民760000人のLa Reunionで、2005年3月から2006年9月末までに266000例のチクングンヤ患者が推定された。チクングンヤは246の重症例で証明されており、確定例の27%が死亡した。また、母子感染が44例報告された。
20	2007/01/25	60817	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
21	2007/01/26	60818	日本製薬	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	血液凝固第Ⅸ因子複合体	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	日本人初のHIV-2感染者が確定された。男性は過去に西アフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。厚生省は、2型の検査も確実に行い、検査漏れがないよう、各都道府県に通知した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(ブラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知らず、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
22	2007/01/26	60819	ゼリア新薬工業	結核菌熱水抽出物	全卵液	全卵液	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	BBC News online 2006年6月23日	WHOは、トリインフルエンザの限定的なヒト-ヒト伝播が5月にインドネシアの家族で発生したと思われることを発表した。しかし今回の事例はトリインフルエンザの拡大における大きな変化を示すものではないと述べた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精量	感染症(PT)	出典	概要
23	2007/01/26	60820	ゼリア新薬工業	結核菌熱水抽出物	結核菌熱水抽出物	Z-100原液	日本	有効成分	無	無	無			
24	2007/01/26	60821	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	無	無	無			
25	2007/01/26	60822	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	ウシ(心臓、血液、乳、骨格筋、脾臓)	ウシ(心臓、血液、乳、骨格筋、脾臓)	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ	製造工程	無	無	無			
26	2007/01/26	60823	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	ヒツジ(血液)	ヒツジ(血液)	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
27	2007/01/26	60824	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	A型ボツリヌス毒素	A型ボツリヌス菌 ( <i>Clostridium botulinum</i> )	米国	有効成分	無	無	無			
28	2007/01/26	60825	日本メジフィジックス	ガラクトシル人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	ガラクトシル人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
29	2007/01/29	60826	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ブタ脾臓由来トリプシン	ブタ脾臓(抽出物)	不明	製造工程	無	無	無			
30	2007/01/29	60827	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ウシ新生仔血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 精査	感染症(PT)	出典	概要
31	2007/01/29	60828	ノボノル ディスク ファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	エプタコグ アルファ(活 性型)(遺伝 子組換え)	エプタコグ ア ルファ(活性 型)(遺伝子 組換え)	該当しない	有効成分	無	無	無			
32	2007/01/29	60829	ノボノル ディスク ファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血 清	ウシ血液	ニュージ ーランド、オ ーストラリア、 米国及びカ ナダ	製造工程	無	無	無			
33	2007/01/29	60830	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	パリビズマブ (遺伝子組換 え)		ドイツ	有効成分	無	無	無			
34	2007/01/29	60831	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	マウスミエ ローマ細胞	マウス培養細 胞株	米国	製造工程	無	無	無			
35	2007/01/29	60832	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	トランスフェ リン	ウシ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
36	2007/01/29	60833	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	リボプロテイン	ウシ血液	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
37	2007/01/29	60834	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清ア ルブミン	ウシ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
38	2007/01/29	60835	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	濃縮リビッド	羊毛	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
39	2007/01/29	60836	バクスター	加熱人血漿たん白	人血清アル ブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
40	2007/01/29	60837	バクスター	人血清アルブミン	ヘパリンナ トリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
41	2007/01/29	60838	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
42	2007/01/29	60839	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子阻害物質補正活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
43	2007/01/29	60840	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	該当なし	添加物	無	無	無			
44	2007/01/29	60841	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅳ因子モノクローナル抗体製造用-1)	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
45	2007/01/29	60842	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	アプロチニン	ウシ肺	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
46	2007/01/29	60843	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅳ因子モノクローナル抗体製造用-2)	ウシ肝臓	米国又はカナダ	製造工程	無	無	無			
47	2007/01/29	60844	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清(抗第Ⅳ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
48	2007/01/29	60845	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巢細胞株	該当なし	有効成分	無	無	無			
49	2007/01/29	60846	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
50	2007/01/29	60847	バクスター	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	無	無			
51	2007/01/29	60848	バクスター	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	インスリン (抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
52	2007/01/30	60849	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ヒトリンパ芽球細胞株	日本	有効成分	無	無	有			
53	2007/01/30	60850	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
54	2007/01/30	60851	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ乳由来カゼイン(センドイウイルスのポリペプトン)	ウシ乳	中国、ポーランド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
55	2007/01/30	60852	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	抗IFN- $\alpha$ モノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
56	2007/01/30	60853	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
57	2007/01/30	60854	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ふ化鶏卵(センドイウイルスを増殖)	鶏卵	日本	製造工程	無	無	有			